全戸配布

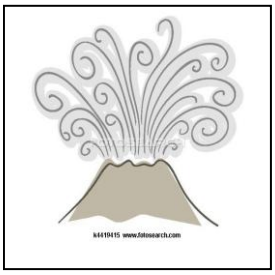
防災会だより

第４５号　　発行 2015.05.15

発行責任者：防災会　橋本壽与

防災会　ご挨拶　　自治会長/防災会長　水知晴美

平和な日本にあっても 2011 年 3･11 の東日本大震災には 世界中が驚きと同時に他人事とは思えない畏れを抱いたものです。災害はいつやってくるかも知れないという大変な教訓を現実のものとして与えられました。
松風台の住民も 40 年前には 30 代前後の方達でしたが、現在はみな 70 代を超す年代となり、自衛と防災には一層力を入れなければなりません。今 箱根山での噴火警戒レベルが上ったことを毎日のように TV 放映されています。いよいよ身近に迫った危機感を憶えます。



自治会長となった私が後期高齢者にも拘らず、自動的に防災会長を兼ねることを知り驚くと同時に また名ばかりでこの街の防衛にはならないと苦慮しています。
今改めて防災知識を吸収する努力をしています。こんな状態です。
皆様どうぞ一人ひとり ご自身を大切にしっかりと防災の知識を得るようご協力ください。と同時にお一人暮らしの方、要援護者を守ることも考えましょう。助け出す協力はもとより、同じ班の あるいは向こう三軒両隣の方達の家族構成を頭に入れて 災害時には せめて救援隊の方達に あの方はご無事でしょうか? の一言を口頭で伝えられる心構えをして頂ければ幸いです。 幸い長年防災会に携わってくださっているメンバーがおられます。頼りになる方々を信じて従い より一層安全な街にしたいと思います。
防災の第一歩は、お一人一人がご自分を守ることが初動第一歩と考えます。　　―以上―

茅ヶ崎における過去に発生した災害　　防災会次長　橋本壽与

最近は、会長が心配されている突然の箱根山噴火警戒行動や、昨秋の御嶽山の噴火を教訓に神奈川、静岡、山梨3県などで構成される「富士山火山防災対策協議会」では、初の合同避難訓練が実施されました。
毎年 日本の各地で様々な大災害が発生しており、私達が住んでいる茅ヶ崎は 東海地震はいつ起こっても不思議ではない、と云われてから数十年が経過しましたけれども、幸いに大きな災害に遭遇した記憶がありません。
それでは、過去にどのような災害が発生したのかｲﾝﾀｰﾈｯﾄで検索した記録で概要をまとめてみました。

①地震･津波　最近の記録では 1923 年 9 月 1 日に発生した関東大震災 M7.9 で茅ヶ崎村は、ほとんど全域で家屋倒壊、損傷し死者 156 名でした。また津波は寒川までのぼった痕跡が認められたそうです。

②火事　天災被害は関東大震災時に1件のみでした。
しかし「茅ヶ崎市は県内最大規模の＊クラスター」と云う情報が溢れており今後の最大課題です。
＊松風台付近は木造住宅密集地で香川、甘沼、みずきを含めて約 5,000 戸の延焼 運命共同体と云われています。

③富士山噴火　宝永時代 1707 年 12 月に噴火した火山灰は偏西風にのって房総半島まで降り注いだそうです。
それ以降はおさまり つい数十年前までは休火山と云われていましたが、また活動し始めました。

④土石流　過去の災害記録には見つからなかったが、今年近々には松風台近辺で大雨時に急傾斜地の崩壊のおそれがある場所が「土砂災害計画区域」に指定されます。

⑤風水害　明治･大正時代に小出川や千の川が氾濫した記録が散見されますが、死者の情報はありませんでした。

⑥戦災（人災）茅ヶ崎市は 1945 年 7 月 17 日平塚空襲の際に、死者 10 名の被災が発生したそうです。

以上の結果から茅ヶ崎市は戦災(人災)を除くと
①で云う関東大震災以来 今日まで 92 年間は記録に残るような大きな自然災害に無縁で平和な街が続きました。と云うことは、今後も大丈夫だろうと楽観しないで、もう そろそろ危ないと考えなければなりません。
毎年 日本のどこかで発生している大災害は、次は私たちの街かもしれません。

自然災害の発生は防ぐことができません。発生後は:減災のために まず自助⇒近助⇒共助⇒公助を。
自宅から火災発生予防は 、大地震発生後のみならず、平和時の人災原因による発生予防も常に最優先です。

2 ページ目　2015 年度事業計画　　は、ホームページ 防災会 > 事業　をご覧ください。
3 ページ目　2015 年度 防災会組織　及び、
4 ページ目　2015 年度 災害対策本部組織　は、ホームページ 防災会 > 組織　をご覧ください。